

取組の方向性について



東京都

検討STEP

7月15日（火）

STEP1

- 鉄道各社へのヒアリング等を通じて、
現状の正確な把握など、**問題点の掘り下げ**

11月28日（金）

STEP2

- 東京の鉄道が持つ都市活動への影響の大きさなどの
個性・特性を勘案し、**取り組むべき課題を特定**

2月18日（水）

STEP3

- 課題の解決に向けて、都・鉄道事業者で、議論・
検討を実施し、**取組の方向性を共有**

**引き続き、将来にわたる持続可能な運行に向けて
有効な解決策を見出すため議論**

現在（2025年）の
鉄道の強み

高頻度

正確

安全

な鉄道運行

生産年齢人口の減少（▲約100万人）に伴う技術者不足

持続可能な運行確保に向けて取り組むべき課題

自動運転化
への取組

作業要員の
確保

共通仕様の設備等の
導入による効率化

設備の統廃合等による
スリム化

維持管理等に係る
鉄道事業への理解増進

災害等の非常時における
体制の強化

設備や人員等の
効率活用

etc.

事業者間の連携が有効な課題を特定

課題解決に向けて取組を実施

将来（2050年代）も高いサービスレベルを確保

第2回検討会 議事要旨

- 今後の技術者不足が見込まれる中で、現在の鉄道の強みを、将来においても高いサービスレベルで確保していくためには**集約一元化が有効**であると思う。
- 各取組について**ハード・ソフトの視点**や**検討・実施に要する期間**(短中長期)に区分したうえで、**公共性の評価やコストと効果の観点**からどの課題に対する取組に注力していくべきか整理する必要がある。
- 時間やコストがかかる中長期的な課題に対する取組は、重要度や緊急度、実現可能性等を踏まえ、どのような官民連携した取組を実施していくか議論が必要。あわせて、**スモールスタートが可能な取組を検討することも有効**。
- 作業要員の確保は、非常に重要な取組であり、**教育機関と連携した取組等を検討**していただけるとありがたい。
- メンテナンスに伴う一部区間の運休や終電繰上げや駅業務の省力化などの取組に対する**社会の理解増進**を図ることも重要であると考える。

取組の方向性

ハードの取組

設備や人員等の効率活用

災害等の非常時における体制の強化

- 設備や部品等の相互融通・共同利用によるメンテナンス対象の削減

設備の統廃合等によるスリム化

- 装置や設備の仕様共通化等によるメンテナンスの効率化

共通仕様の設備等の導入による効率化

自動運転化への取組

- DXなどの新技術活用によるメンテナンス等の効率化

ソフトの取組

作業要員の確保

- 鉄道事業者や教育機関との連携による人材確保

設備や人員等の効率活用

- 鉄道事業者や協力会社間の連携による人材育成

維持管理等に係る鉄道事業への理解増進

- 事業者と都が連携し、運行や維持管理に対する社会的理解を増進

R8年度の取組

①有効な解決策を見出すための検討の深度化

- ・官民連携した**取組の具体化を検討**
- ・公共性、コスト、効果の観点から、**注力していくべき取組を整理**

②先行的に実施する取組

鉄道事業者からの意見を踏まえ、「**出前授業**」と「**社会的理解増進イベント**」を実施

■出前授業

都と鉄道事業者が連携し、都内にある教育機関等へ出前授業を実施

【内容（案）】

- ・鉄道事業のやりがいや最新技術の紹介など
- ・車両基地見学や訓練センター等における体験型学習などのPR

■社会的理解増進イベント

メンテナンスに必要な時間の確保や駅業務効率化等への理解醸成イベントを実施

【内容（案）】

- ・深夜メンテナンス作業の実態や社会インフラを支える重要性などを講演
- ・メンテナンスの社会的な意義・必要性の発信